

人が輝く まちが輝く
サンライズリゾート よなばる



与那原町観光実施計画 概要版

2018 - 2022

平成 30 年 2 月

与 那 原 町

1. 与那原町観光実施計画策定の意義

(1) 観光実施計画策定の目的 (⇒本編 1 頁)

- 沖縄県に対する観光客の増加は著しく、国内旅行者のリピート率は8割を超え、外国人観光客の伸び率が顕著化
- 中城湾港マリンタウン地区が大型 MICE 施設建設予定地に決定しており、新たな交流人口の創出に期待
- 観光がもたらす活力を本町に取り込み、かつての本町の歴史・文化や豊かな自然環境を活か



今後の本町の地域活性化を推進する計画として、「観光分野」に焦点を合わせ、沖縄の東海岸地域、南部地域を視野に入れて与那原町観光実施計画を策定。

⇒本計画を通じて、与那原町の地域特性を活かした魅力ある観光プログラムの提供による地域活性化や、沖縄県の MICE 開催拠点としての与那原町の知名度向上、周辺地域連携による東海岸地域活性化の実現を目指す

(2) 「観光実施計画」の位置付け (⇒本編 3 頁)

【国の観光関連政策】

- 観光立国推進基本法 ●観光立国推進基本計画 ●改正沖縄振興特別措置法 ●沖縄振興基本方針



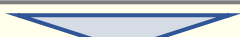
【県の観光関連政策】

- 沖縄 21 世紀ビジョン ●沖縄 21 世紀ビジョン基本計画 ●沖縄観光振興基本計画（第 5 次）改訂版
- マリンタウン MICE エリアまちづくりビジョン ●沖縄 MICE 振興戦略



【与那原町の観光関連政策】

- 第 4 次与那原町総合計画（平成 23 年度）【平成 29 年 9 月 一部改訂】
- 与那原町都市計画マスタープラン（平成 25 年度）【平成 30 年 2 月 一部改正】



- 与那原町観光計画（平成 25 年 12 月）
[計画期間：平成 26 年度～平成 35 年度]



- 与那原町観光実施計画（平成 30 年 3 月）
[計画期間：平成 30 年度～平成 34 年度]

- 与那原町総合交通基本計画（平成 28 年度）
- 与那原町地域総合交通戦略（平成 29 年度）
- 与那原町景観計画（平成 28 年度）

「大型 MICE 施設」の建設決定を
はじめとした昨今の環境変化を反映

(3) 計画期間 (⇒本編 3 頁)

本計画の期間は、2018（平成 30）年度から 2022（平成 34）年度までの 5 年間とします。本町を取り巻く社会情勢や観光動向などに変化があった場合は迅速に対応し、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

2. 与那原町の観光振興基本理念

(1) 基本理念 (⇒本編 19 頁)

本町を取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、本町の持つ自然・歴史・文化的特性や優れた生活環境を活かした観光振興に取り組むと同時に、沖縄県の MICE 拠点としての立地を活かしたビジネスリゾート構築に取り組みます。

一人でも多くの方に本町を知ってもらい、本町の人と出会い、文化や風土に触れてもらうことで、このまちで暮らしたいと思えるような体感・体験を提供します。またこれを通じて、町民一人ひとりが輝き、まち全体が輝く、国内外の他にはない「よなばる」ならではの観光まちづくりを実行し、東海岸地域の「サンライズリゾート」としての発展を牽引します。

人が輝く まちが輝く サンライズリゾート よなばる



(2) 観光振興に向けたメッセージ (⇒本編 20 頁)

【与那原町民に向けて】

- 本町の観光の明るい未来を創るためには行政や観光業界に加えて、町民一人ひとりが「主役」として取り組むことが必要です。
- 光り輝く本町の魅力を発見し、成長させ、発信していきましょう。おもてなしや町内の美化等を心がけ、住みやすさナンバーワン、観光客満足度ナンバーワンを目指しましょう。

【周辺地域の自治体及び事業者に向けて】

- 東海岸地域は発展可能性を秘めた地域です。「中城湾地域振興協議会」及び「東海岸地域サンライズ推進協議会」が中心となり中城湾地域全体で観光振興に取り組むことで地域経済力向上につなげていきましょう。

【与那原町の事業者に向けて】

- 観光は旅行業、運輸業、宿泊業、飲食業、観光施設、土産品業、イベント業など幅広い産業に関連する非常に裾野が広い「総合産業」であり、経済効果が大きいことが特徴です。
- 観光客やビジネス客のニーズを的確に捉え、質の高い製品やサービスを提供することで本町の産業を盛り上げましょう。

【与那原町を訪れる観光客に向けて】

- 本町は古い街並みと新たな街が併存する魅力あふれるまちです。
- 沖縄本島の東海岸を代表する観光地とビジネス拠点として発展する本町を体感してください。これまでの沖縄観光では得られなかった満足が得られます。私たちは皆様を温かくお迎えします。

3. 与那原町観光実施計画

(1) 観光実施計画の目標（与那原町の観光の5年後のあるべき姿）（⇒本編 21 頁）

「基本理念」の実現のために、観光実施計画の目標を定めました。

- 本町のもつ歴史文化や地理的な背景といったポテンシャルを「与那原ブランド」として内外に発信している。
- 「与那原ブランド」に価値を感じるツーリストに、本町を体感する機会を提供しており、与那原のことをより好きになって頂いている。
- 町民は、観光客の受け入れを通じて、経済面や社会面でメリットをもたらされており、町民がそれを実感できている。

【目標1】：与那原ブランドの構築と浸透、強化

内外から与那原の地域ブランドの価値が認知されている。

【目標2】：ツーリストに対するブランド価値の提供

ツーリストが与那原ブランドの価値に出会える機会を本町で提供できている

【目標3】：ツーリズムをきっかけにした住みやすさの実現

町民が観光への取り組みを通じて、町に誇らしさを感じ、活躍の場の確保や、所得の向上などの利点を享受できている。

(2) 目標達成に向けた3つの重点事項（⇒本編 22 頁）

3つの目標を達成するために「与那原町観光計画（H25年）」の前期の実績や町民ワークショップの結果を踏まえ、今後5年間で重点的に取り組むべき事項を以下の3点とします。これらの重点事項を踏まえ戦略や施策の方針、施策を定めていきます。

I. 大綱曳

町民の誇りである本町の大綱曳は440余年の歴史があり、毎年開催されている与那原大綱曳まつりは1年間でもっとも集客している最大のイベントとなっており、本町で最も認知度が高く、県外・海外の観光客にも魅力のあるコンテンツとなっています。

平成27年度には「大綱曳のまち」宣言を行っており、今後は与那原大綱曳まつりが開催される時だけでなく、いつでも与那原といえば大綱曳といえるような仕掛け作りを行うことにより、さらに多くの人に本町を認知させ、誘客を図る仕組みを構築します。

II. 水路

東浜水路はこれまで開催されたワークショップやアンケート等からも町民だけでなく、**町外から訪れる方にとっても観光スポットとしての可能性を感じられるエリアとなっており、今後の活用が期待されています。**

民間事業者の視点も取り入れながら、官民協働で水路沿いでのアクティビティーや食の魅力のコンテンツ等の構築・強化を行い、賑わいの創出を図ります。

Ⅲ. MICE

平成 27 年 5 月に本町と西原町にまたがる中城湾港マリンタウン地区が大型 MICE 施設建設予定地として決定し、沖縄県が供用開始を目指しています。

建設予定の大型 MICE 施設は、県内で最大、国内でも最大規模の施設となり大きなビジネスの機会があります。このビジネス機会をしっかりと獲得すべく、**受入体制の強化**を図ります。

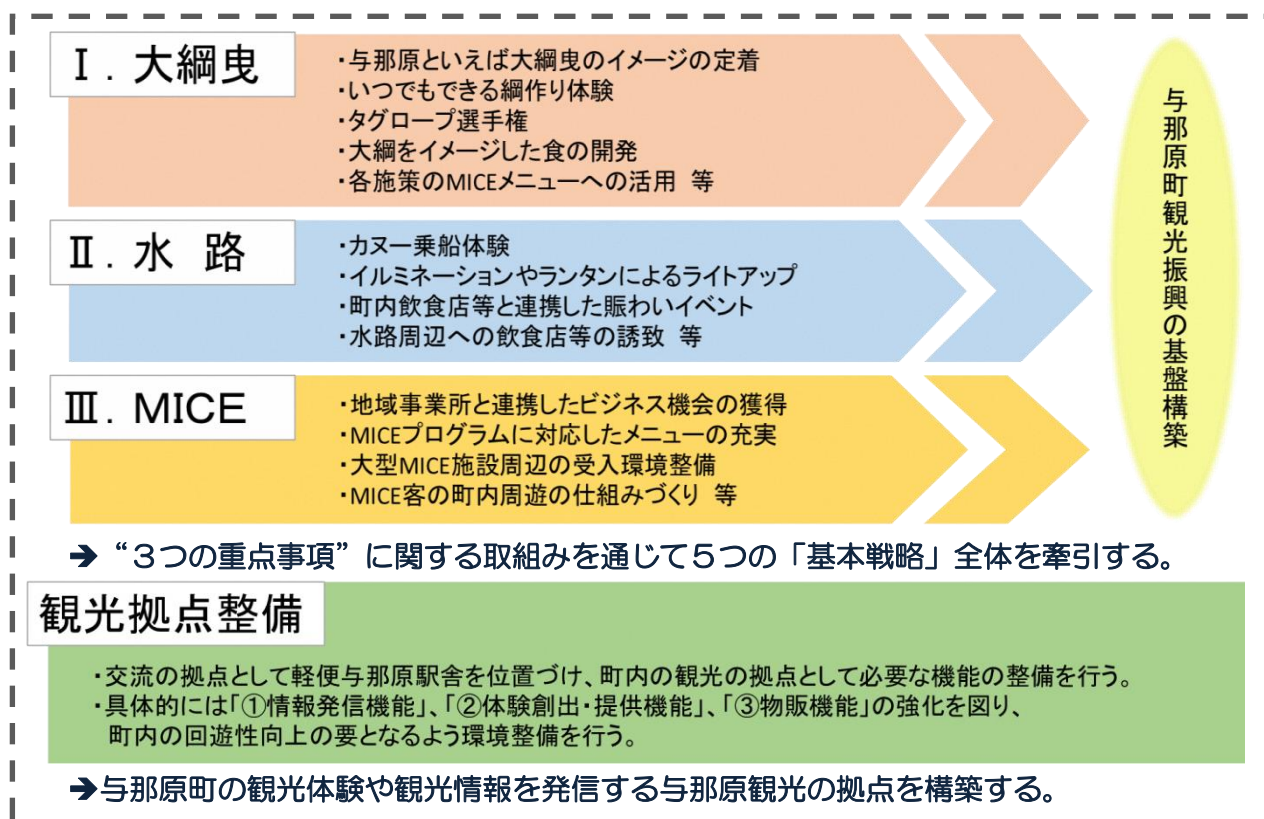
＜目標達成に向けた 3 つの重点事項＞



(3) 「重点施策」と「推進計画」の考え方 (⇒本編 32 頁)

本町において優先的取り組むべき 3 つの重点事項と、これらに関する施策を推進し、町全体へ波及を図る拠点として「観光拠点整備」を、それぞれ「重点施策」として位置付け、施策全体を牽引する位置付けとし推進を図ります。

＜「重点施策」の考え方＞



(4)「与那原町観光実施計画」の施策体系 (⇒本編 33 頁)

＜与那原町の観光振興基本理念＞ 人が輝く まちが輝く サンライズリゾート よなばる

＜観光実施計画の目標＞

(目標1) 与那原ブランドの構築と浸透、強化

【施策体系】

基本戦略	施策の方針	施策	重点施策	ページ 番号
【戦略1】 情報発信を通じた与那原のイメージの定着	①観光コンテンツ等の情報発信	1-1 デジタル的な情報発信	(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	P48
		1-2 アナログ的な情報発信	(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	P48
		1-3 MICEへの取組を含む町内への啓発・広報活動	(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	P48
	②よなばるブランドの構築	1-4 よなばるブランドの構築	(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	P48
【戦略2】 独特な歴史・文化と新たな魅力を活かした新・与那原観光イメージ創出	①与那原大綱曳活用	2-1 大綱曳体験ツアー	I	P35-38
		2-2 「大綱曳」をテーマにした新規コンテンツの展開	I	P35-38
	②「食」の魅力発掘・発信	2-3 食の魅力創出	(Ⅰ・Ⅱ)	P49
	③まち歩きコンテンツの充実	2-4 まちあるきガイド養成・コースの充実		P49
	④観光・ビジネス拠点整備	2-5 拝所等文化資源の環境整備		P49
		2-6 まちなみ環境の整備		P50
		2-7 軽便駅舎の観光交流拠点に向けた取組	IV	P50
		2-8 既存の建物を活用した事業所誘致		P50
	⑤インバウンドの受入体制整備	2-9 多言語対応の環境整備		P50
【戦略3】 東海岸の特性及び地域の水資源を活かした新たなマリレジャー及びウォーターフロント創出	①水路沿いの賑わい創出	3-1 水路を活かした観光プログラムの構築	Ⅱ	P39-42
		3-2 夜の飲食街活性化のための取組	Ⅱ	P39-42
		3-3 地域活性化イベントの支援事業	Ⅱ	P39-42
	②与那原の水産物を活かした取組	3-4 与那原の水産物のブランド化		P51
	③与那原マリナーナ魅力発信	3-5 与那原マリナーナ発マリレジャーの創出		P52
	④朝活イベント・プログラムの強化	3-6 東海岸の特性を活かした早朝プログラム創出		P52
	⑤きらきらビーチ連携	3-7 西原町と連携したきらきらビーチの活用推進		P52
	⑥クルーズ船の受入れ	3-8 クルーズ客のニーズに対応する仕組みの構築		P52
【戦略4】 MICE開催拠点としての魅力を活かした交流拠点創出	①大型MICE施設周辺整備	4-1 大型MICE施設周辺整備		P53
	②MICE開催に係るビジネス振興	4-2 MICEマネジメント力強化	Ⅲ	P43-45
	③MICE受入プログラムの開発	4-3 MICEプログラムに対応したメニューの充実	Ⅲ	P43-45
	④周辺地域連携	4-4 広域的な観光商品の開発		P53
【戦略5】 沖縄で一番暮らしやすいまちづくり	①生活環境(買い物、食、文化等)	5-1 民泊事業の推進		P54
		5-2 観光地美化活動	(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	P54
		5-3 観光危機管理	(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	P54
	②利便性(アクセス)	5-4 レンタサイクル等での域内交通の充実		P55
	③教育拠点	5-5 スポーツツーリズムの推進		P55
	④医療・福祉	5-6 ユニバーサルデザインによる受入環境整備	(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	P55

（目標２）ツーリストに対するブランド価値の提供

（目標３）ツーリズムをきっかけにした住みやすさの実現

【凡例】

..... : 準備段階

———— : 実施段階

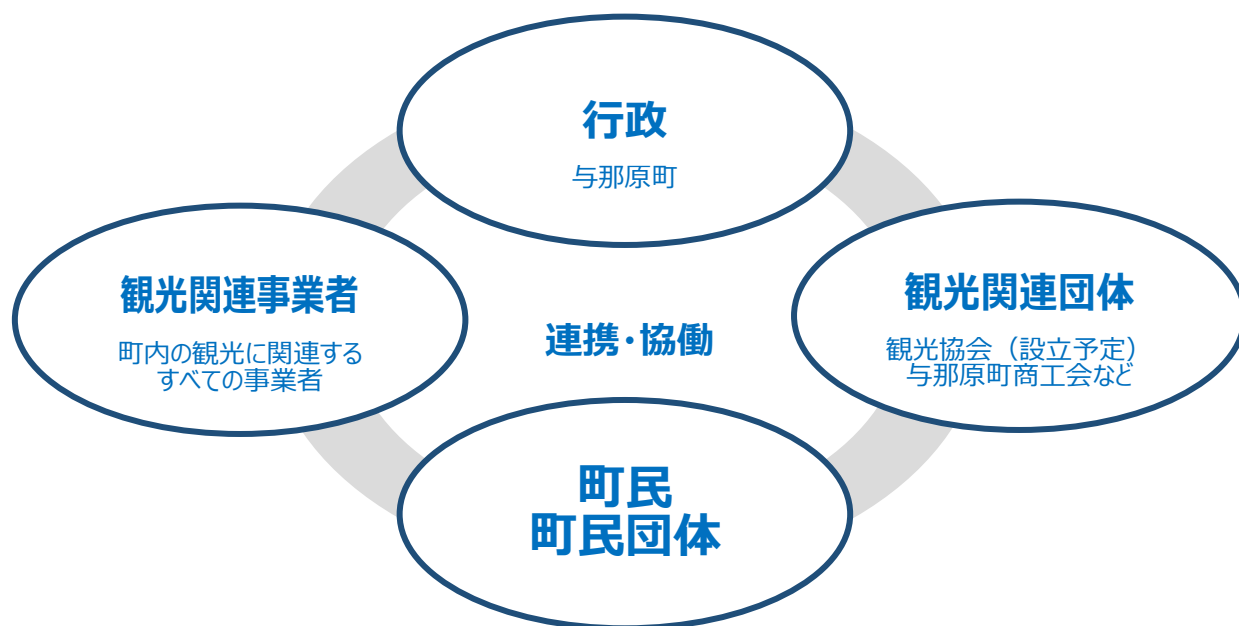
施策 番号	実施主体					展開スケジュール					K P I
	行政	商工 会	観光 団体	事業 者	町民	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020年)	H33 (2021年)	H34 (2022年)	
1-1	●	○	○	○	○	————	————	————	————	————	知名度の向上 ポータルサイトアクセス数(158,790PV→ 216,271PV) 沖縄南部に来た観光客の 本町の知名度 (20.8%→36.2%)
1-2	●		○			————	————	————	————	————	
1-3	●	○					————	————	————	————	
1-4	●	○	○	○	○	————	————	————	————	————	
2-1	●		○	○		————	————	————	————	————	大綱曳の来訪者数 (18,000人→23,400人) 大綱曳の認知度 (未計測→現状の30.0%増) 軽便与那原駅舎の来訪者数 (7,907人→10,773人)
2-2	●		○	○			————	————	————	————	
2-3	○			●				————	————	————	
2-4	○		●		○	————	————	————	————	————	
2-5	●					————	————	————	————	————	
2-6	●					————	————	————	————	————	
2-7	○	●	○			————	————	————	————	————	
2-8	●			○				————	————	————	
2-9	●		○	○				————	————	————	マリンレジャー及び水路 アクティビティー プログラム数 (0件→5件) イベント時の出店件数 (0件→15件) 住民意識調査による水辺 空間の評価 (未計測→50.0%)
3-1	●		○	○		————	————	————	————	————	
3-2	○	●	○	○		————	————	————	————	————	
3-3	●	○	○	○		————	————	————	————	————	
3-4	○			●				————	————	————	
3-5			○	●				————	————	————	
3-6	○		○	●					————	————	
3-7	○		○	●						————	
3-8	●		○	○				————	————	————	地域事業所のMICE産業請負数 (0社→20社) アフターMICE受入プログラム プログラム数 (0件→5件)
4-1	●					————	————	————	————	————	
4-2	○	●		○			————	————	————	————	
4-3	○		●	○			————	————	————	————	
4-4	○		●	○			————	————	————	————	人口の増加 (19,568人→21,600人)
5-1	○		○	●	○				————	————	
5-2	●		○		○	————	————	————	————	————	
5-3	●		○	○					————	————	
5-4	●		○		○			————	————	————	
5-5	●		○	○					————	————	
5-6	●				○				————	————	

4. 推進体制

（１）与那原町観光実施計画の推進体制（⇒本編 63 頁）

これまでに取り組んできた町内の観光に関する取り組みを継続しつつ、今後の更なる発展を実現していくために、行政や今後設立される「与那原町観光協会」だけでなく、観光関連団体、観光関連事業者、町民などが目指すべき観光の将来像を共有し、相互に連携、協力しながら協働することができるよう、各主体が果たすべき役割を位置付けます。

＜更なる観光振興の実現に向けた実施体制のイメージ図＞



（２）与那原町及び周辺地域における観光推進体制強化（⇒本編 64 頁）

① 与那原町観光協会設立	●地域としてのマーケティングやマネジメントの能力を高め持続的な取り組みとしていくために、ツーリズムを通じて地域の稼ぐための能力を強化し、地方自治体が苦手とする部分である「時代のニーズを敏感にキャッチし、スピーディーかつ柔軟な対応」が取れる組織として観光協会の設立や、「地域 DMO」として機能の強化を図ることを検討します。
② 観光人材の育成	●ツーリスト産業のなかでの人材育成に加えて、沖縄女子短期大学等の教育機関等との連携により、地域における人材育成を図ります。
③ 参加・協働の推進	●近年のツーリストのニーズとしてより地域の住民の生活に近い体験が望まれる傾向にあり、こういった側面からも、地域住民の積極的な参加・協働がツーリズムの振興において重要な要素となります。今後一層、町民の参加・協働による観光まちづくりを推進します。
④ 広域連携体制の構築	●大型 MICE 施設を中核とした、「東海岸地域サンライズ推進協議会」による連携や、クルーズ船の受入を見据えた「中城湾地域振興協議会」、南部地域からの周遊観光の強化、多くの観光客が訪れている那覇都市圏等との広域連携を推進します。